

「家がいいね」 第132号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2015. 5. 1

人はどこまでを伝えられるのですか？

花の季節に続き新緑です。

樹は動けなくても百年単位の時間を生きてゆきます。

戦後70年と言われますが次々変わりゆく人間の軽さを山は笑っているでしょう。

戦後5年で生まれた私、

祖父は中国満州の開拓団に単身動員され、父は徴兵で

南洋のラバウルまで赴き、

命からがら帰国しました。父の弟は除隊後に病没

しています。戦後に父が生き長らえて結婚もして、

私の存在があるわけです。しかし父も祖父も苦勞の経験をし、その最期まで語ってくれませんでした。

今、自宅での在宅医療と看取りに関わっていて、平和な時代であるのに、自分の生きてきた道筋を大切な家族に語っていない方々が大半のように思います。語り継ぐ文化を「迷惑をかけたくない」という呪文のために放棄するようで残念です。



人の生きる時間は、短かすぎるから

125号で日本人の生活史を丹念に聴きとり、

写真におさめた民俗学者の宮本常一さんに触れました。さらに長い歴史を文化人類学者は考えます。

上橋菜穂子さんの「隣のアポリジニ」を読み少数者の文化は伝承の危機にさらされることを改めて知りました。何も遠い国の話ではなく「兎追い」

のふるさとが消えた戦後日本の各地域が全く同じだと思います。人口減少だけが、消滅の危機ではないと思います。神宮の形を繋ぐだけで20年毎

が必須なのに、幾世代も繋いでゆべき家族としての魂の伝承が、今や風前の灯のようになっています。

上橋さんは、ファンタジー小説家でもありません。

常人の生活の時間と違う悠久の世界が見えないけど重なり流れており、二つの世界のいのちを守る

ことが「精霊の守人」に始まる小説のテーマです。

最終章では、帝国に制圧され戦争に駆り出される枝国の人々、その危機を救う人の姿が印象的です。

何やら、きな臭く、言葉が本来の意味を失っている現世ですから、なおのこと身の回りから冷静な気持ちを取り戻したいものです。3回も続けておススメですが、ぜひ佐治先生のお話をどうぞ！

佐治晴夫先生 伊勢講演会

「終わりよければ」いせの会 後援

5月24日(日) 15時~17時

神宮会館 大講堂 有料申込制

「宇宙に学ぶ人生の歩き方」

「これから」が「これまで」を決める

私たちは宇宙のひとつかけらとして繋がっています。そんな不思議の命なのに争いが続きます。俯瞰した見方も必要です。佐治先生が、がんの術後にもかかわらず、皆さんに親しく話される機会を作っていただきました。



みえ生と死を考える市民の会 定期講演会

6月21日(日) 13時~15時

津市 三重県総合文化センター

アルフォンス・デーケン先生

(哲学者・死生学提唱者)



「輝いて生きるために」

「ユーモアのすすめ」

人には避けられない死があり、自分の人生は自分しか生きられない。しかも1回限りの人生です。ユーモアを持って、輝いて生きるに値する時間が待っています。

今月も訪問診療への同行をお願いします

4月~6月、3人の研修医

が1か月の期間でクリニックに来て同行訪問します。未来

の在宅医を、ぜひ患者さん・

ご家族も共に育ててください。よろしくお願いします。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>